

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 3 回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	平成 3 0 年 3 月 1 日(月) 1 8 時 3 0 分～ 2 0 時 0 0 分
開催場所	高松市役所 1 1 階 1 1 4 会議室
議 題	(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の進捗状況について (2) 次期計画に係る素案について (3) アンケート案の策定について (4) その他 今後のスケジュールなど
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	青山委員、甘利委員、金川委員、鹿庭委員、鎌田委員、北岡委員、島田委員（副会長）、多田委員、谷委員、佃委員、橋本委員（会長）、林委員、若井委員 計 1 3 人（欠席 2 人 木ノ下委員、田中委員）
傍 聴 者	0 人 （傍聴席 4 人程度を確保）
担当課および連絡先	高松市文化芸術振興課 0 8 7 - 8 3 9 - 2 6 3 6

審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。また、会議に先立ち、橋本会長から本日の会議について、原則公開とすることを説明し、出席委員全員がこれを了とした。

(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の進捗状況について
平成 2 7 年 3 月に策定にされた「高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の進捗状況について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。

<アートディレクター>

(委員)

- ・アートディレクターを配置した効果や課題等、今後、分析・検証が必要。
- ・アートディレクターによるファシリテーター養成のためのワークショップを実施しているが、実施の効果等、受講者に対する追跡調査は行っているか。

(事務局)

- ・現在、座学形式の受講から、受講者自身がワークショップを各分野にて行う段階へと進んでおり、状況としては着実に進展している。

<ホスピタルアート>

(委員)

- ・ピアノがあれば演奏会の幅が広がる。また、音楽療法の視点とも関連付けて考えると良い。
- ・他県等で音楽を身近なものしていく取組が参考になる。

(事務局)

- ・ピアノは恐らく現地にはないため、デリバリーアーツの手法で実施していくこととなる。今後、病院側との協議について、御意見を尊重しながら進めていく。

(2) 次期計画に係る素案について

高松市文化芸術振興計画の期間が平成30年度までとなっているため、次期計画を策定するに当たっての素案について事務局から説明し、次のとおり意見があった。なお、素案については了承され、今後、細部を議論していくこととなった。

<街中の看板・アイコン>

(委員)

- ・高松市を訪れる外国人観光客が増加している。海外において、ゲストに対する表示が非常に分かりやすい都市もあるため、高松市でも街中の看板・アイコンについて、多言語化や芸術文化的な視点を取り入れて欲しい。
- ・サインだけでなく、アートとユニバーサルデザインの関連を意識すると良い。

(事務局)

- ・街中の看板・アイコンについては、数も多く規制があるため、行政でコントロールできる部分とできない部分がある。ただ、サンポート地区においては、看板・アイコンの表示の統一について、既に御意見をいただいております。様々な分野に関わる話となるため、全庁的に取り組んでいる。その進捗状況を見極め、計画に盛り込むことも検討したい。

<プラットフォームづくり>

(委員)

- ・駅のホームのように、高松市に様々な文化がやってきて、乗り降り・交流があり、地域が活性化される、その役割を市が果たすということも、一つのプラットフォームの考え方となる。今月開催される高松国際ピアノコンクールはその一例と言える。
- ・協働が課題の一つとなっているが、アートディレクターの後継の意味も含めて、それが反映されたものと考えてよいか。

(事務局)

・現状では、既存及び新しく生まれてくる文化団体の方、文化を鑑賞する方、文化を担う方等様々な分野の方が集まり、高松市の文化の方向性・方針を考えたり、市の施策・情報を伝えたり、新しいものを生み出していけるような活発な場を想定している。協働については、御認識のとおり。

<新計画の体系について>

(委員)

・現計画の体系と比べて、はっきりして分かりやすくなっている。
・高松市は、こどもミライエも含めて芸術士派遣事業を行っており、保育園あるいは幼稚園から、小学校・中学校・高等学校という段階に応じた、文化芸術に触れる流れを意識して行って欲しい。

(事務局)

計画全体としては、個別事業というより全体的な視点で策定していくことを考えている。こどもの分野については、新計画においても重要視している。

<大学等との連携>

(委員)

・地元の香川大学で学部の改組があり、4月から創造工学部ができるので、学部内のカリキュラム等、建築の魅力を伝える動きに連動して行って欲しい。また、イサムノグチ庭園美術館との連携が低調に見えるが要因を知りたい。

(事務局)

・生徒を引率する先生方の利用料を助成しており、30年度以降の実施方法を見直している部分はあるが、イサムノグチ庭園美術館の利用を奨励する姿勢は今後も変わらない。

(3) アンケート案の策定について

次期計画を策定するに当たって、現計画策定前に実施したアンケートに、質問項目を追加して調査を実施する予定であり、その案について事務局から説明し、次のとおり意見があった。なお、内容については、意見を反映させた質問案を事務局で再度作成し、橋本会長に協議のうえ決定することとなった。

(委員)

・誰と参加したか等、対人関係を意識した質問があれば良い。
・将来的に高松市が、どういう都市になればいいと思うか。
・サンポートホール高松、高松市美術館等、市の施設を観客・演者として、年間どのくらい利用しているか。
・文化芸術のイメージが人により偏りがあるかもしれないので、アンケートの導入部分で、具体例をあげてイメージづけを行ったりすると分かりやすい。また、市のメッセージや方向性をそこで示してもいいかもしれない。

- ・選択肢の項目で「その他」の回答が具体的に把握できるようにして欲しい。見落としている意見や、発見があるかもしれない。
- ・アンケートを分析する際は、相関関係を意識して欲しい。
- ・感想だけでなく、市民の希望を把握できるような内容にして欲しい。
- ・事務局案の質問項目にあるイベントという言葉は、範囲が広く単発のイメージがあるため、文化芸術に関する活動等に改めた方が良い。
- ・あなたが思う高松市の文化度はどれくらいですか、というような、その人個人の満足度を問うような項目があってもいい。
- ・既存のアンケート項目の選択肢中、陶芸の項目がある。正確には、陶芸は工芸の分野の一つであり、範囲が狭いため、工芸等に修正をするべき。

(4) その他 今後のスケジュールなどについて

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以 上